

平成27年度第2回昭島市民図書館協議会（兼第1回
子ども読書活動推進計画評価等会議）

日 時 平成27年11月11日（水） 午後6時30分～

磯村係長 これから平成27年度第2回昭島市民図書館協議会兼第1回子ども読書活動推進計画評価等会議を始めます。開会にあたりまして生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

山口部長 改めまして皆さんこんばんは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。前回、新しい図書館についてお話をさせていただいたのですが、そちらの進捗状況を少しだけお話させていただきます。現在、基本設計に着手しており本年度から来年5月まで基本設計業務を行います。28年いっぱいには実施設計を行い、その後本格的な工事に入る予定でございます。工事期間の予定は30年から31年、31年末には竣工というかたちで進めさせていただいております。

基本設計事業者につきましては委託先が株式会社佐藤総合計画になりました。大きな総合建築事務所でこの辺りですと青梅や府中の図書館を手がけたところでございます。図書館だけではなく図書館と既築の部分の改装になりますが、図書館の経験的には十分な事業者でございます。

基本設計事業者を選定するに当たりましては、公募型の企画提案型「プロポーザル方式」という業者選定方式で行い、市の管理職員が形ではなくどのようなご提案をいただけるかということを中心に選定をいたしました。その中で、私どもが出した仕様書や先に決まっております計画等を勘案していただき、「こういう提案をできるし、こういう提案もできる」と、私どもの意向に一番沿ったようなかたち、さらにプラスαのご提案をいただいているような状態でございます。特に、つつじが丘南小学校を改築・増築して新しい図書館にするというところで「つつじが丘南小学校だったという記憶を残すような建物にしたい」というご提案をいただいたのはここだけでした。やはりいろんなご事情があっても自分が携わった小学校がなくなるというのは、小学校を卒業した方だけでなく地域の方にとっても寂しいものであると思います。そういうところをプラスの方向で、ゆくゆく先も図書館として皆に愛される建物になるように、というご提案をいただいております。

今後、それぞれの担当課とヒヤリングしながら実際の設計をしていくこととなりますが、その辺りをうまく生かしていただけるのではないかと考えております。

また、広報あきしまの12月1日号にもお出ししますが、市民の方を対象にしたワークショップを開く予定でございます。図書館だけではなく子ども・教育関係の施設や郷土資料室等色々な機能がまとめて入りますので、それぞれワークショップを数回ずつ開き、市民の方のご意見を取り入れながら基本設計に反映していきたいと考えております。概ね基本設計（案）がまとまりましたら、市民説明会というものをを行う予定でおります。その際はもちろんご案内をいたしますが、是非皆さまにご参加いただきたいと思いますと考えておりますのでよろしく願いいたします。私からは以上でございます。

磯村係長 ありがとうございました。

引き続きまして真如会長お願いいたします。

真如会長 皆さんこんばんは。本日拝島第三小学校で小教研という研究会がありました。学校図書館部会というものもありまして、市内の子どもたちが少しでも読書活動を楽しめるよう企画しているところです。今日は12月の研究授業でのブックトークのテーマを「月」にして月に関係のある本を図書室から全部集めたら結構ありました。教員も読んでいるようですが「こんなにあるんだ」と。絵本もあれば調べ学習用などさまざま、こういう本があるのなら子どもたちにこういう紹介をするといいねと、教員の目が輝いていました。これはいい時間だったと思います。

新しい図書館ができるということでそれに向けて協議会でいろいろ審議するということはとても責任もありますし、やりがいもあります。今日も皆さまお忙しいところを集まっていただきました。いい協議会になるようによろしく願いいたします。

磯村係長 ありがとうございました。

引き続き議事をお願いいたします。

真如会長 議題に入ります。

（1）市民図書館の耐震補強工事に伴う休館について
お願いいたします。

石川館長 資料1をご覧ください。

「市民図書館の耐震補強工事に伴う休館について」でございます。昭島市民図書館におきましては平成26年に実施いたしました耐震診断にて「耐震性能を有していない」と判断され、現在耐震補強

工事の設計を実施しております。平成28年1月末で設計業務が終わる予定で、設計ができ次第、工事に入るというスケジュールです。工事中は利用者職員の安全に配慮いたしますが、この建物が平成31年度には図書館の前の都市計画道路3211号の整備のために更地にしなければならないという関係から、経済性も考えつつかつ基準を満たす工事を考えております。

1. 工事に伴う休館

2月15日から7月31日を予定しておりますが、極力休館を短くしていきたい。

2. 休館中の本館での業務内容

工事期間中、通常業務を縮小し予約された図書の貸出と返却本の受け取りを実施。

3. 休館に伴う代替措置

近隣公共施設において新刊雑誌の閲覧、「おはなし会」「大人のためのおはなし会」を極力平常時と同じように実施。

4. 周知

2月の広報では遅く1月の広報でと提案したところ、1月は1日と15日が合併号のためボリュームが多いということで、12月15日号の広報に掲載。

なお、この他ホームページ・チラシ・ポスターで案内。

市民図書館昭和分館についても、昭和会館の改修工事に伴い来年4月から半年間休館する旨も12月15日号広報に掲載。

という状況でございます。

真如会長
原 委員
石川館長

ご報告がありました。ご意見ご質問等ございますか。

新刊雑誌などは入るようですが、新着本の購入はありますか。

購入します。予約をして取りに来ていただき、ご自宅で読んでいただくと。

原 委員
石川館長
磯村係長
原 委員

通常毎年買っている新刊の購入は。

購入していきます。

購入は年間で計画的に行います。

そういった資料はもちろん本館では閲覧できないので分館で見られるのですか。例えば新幹線図書館などは通常開館するのですか。

磯村係長

分館分室は通常業務を行います。ただ、本館所蔵の本につきましてはすべてを表に出せるわけではありません。半年となりますと新刊6,000冊程入ると思います。それについてはご予約いただき極力提供していくよう考えております。残りの本は、仕方ありませ

んが本館に置いておき、開館とともに出すようなかたちです。

原 委員

ありがとうございました。

吉野委員

新聞はどうなりますか。

石川館長

検討中です。極力、音をさせないようにしますが、工事音がうるさいことと安全を考えてということもございます。

吉野委員

新刊雑誌は公共施設ですよね。

石川館長

公共施設は現在調整中です。

美坐委員

ここにある本を分館に移すということではないのですね。

石川館長

違います。

磯村係長

1階については、工事で人が入れず一般書は貸出できなくなりま

すので閉鎖します。検索システムからも見られないようになります。

真如会長

よろしいでしょうか。

では（２）図書館見学ツアーの実施についてお願いします。

石川館長

資料２をご覧ください。

昭島市民図書館協議会との共催により今後の昭島市の図書館運営に生かすことを目的としてこの事業を行っております。

第１回の協議会でもご案内いたしました。今年度は、協議会委員でおられます大串先生も関わってこられました山梨県立図書館を予定しております。山梨県立図書館は作家の阿刀田高さんが館長で、‘賑わいのある交流ゾーンを作る’というコンセプトで計画された図書館です。図書館はこれまでは静かにしなければいけないという考え方が支配的だったようですが、今後、少子高齢化が急速に進み、一部の愛好家だけの図書館という状況を見直そうという動きもあります。このような状況を踏まえまして、１月２８日に下記の日程で計画いたしました。なお、市民公募につきましては例年１月１日の広報に掲載しておりますので、今年度もそのようにしていきたいと考えております。

真如会長

ご説明がありましたが、ご意見ご質問等ございますか。

それでは（３）平成２７年度昭島市民図書館事業の進捗状況についてよろしく願いいたします。

石川館長

資料３をご覧ください。

９月、子ども読書推進事業「０歳からのわらべうたライブ」を行いました。講師は坂野知恵さんと息子のいぶきさんです。彼女は私の高校時代のクラスメートでして、子どもから大人まで１１５名を前にして土曜日の午後のひとときを幸せにしているなあ、と感心し

て聞いておりました。

続きまして、10月、高齢者向け講座「振り込め詐欺防止講演会」を行いました。参加者は31名と結果的には募集人数を上回りましたが、10月1日号の広報での周知や老人クラブの集まりで声を掛けましたが、募集期間をしばらく過ぎても応募が少なく1桁という状況でした。職員にも協力を仰ぎ、近隣の老人クラブを回り参加を呼び掛けたり、図書館玄関前での呼び掛け、あるいは銀行ATMコーナーにポスターを貼らせていただいたりしてPRに努めました。参加者の近隣の老人クラブの会長より「最近、近所のおばあさんが何百万円詐欺にあった」という話や、「銀行で大金を振り込もうとする人を警備員が不審に思っていると怒鳴りつけられる」という話もあり、昭島でもまだこういう状況があることがわかりました。今後とも図書館法に定められたことに従い、時の事情や公衆の要望に沿った事業を推進してまいりたいと考えております。

続きまして今後の予定でございます。

第1回の図書館協議会でお話させていただきましたので、詳しい内容は割愛させていただきますが、11月「青少年フェスティバル」12月、昨年お呼びして好評だった「杉山亮先生による講演会」2月、雑誌‘MOE’創刊に関わった「松田素子先生による講演会」3月「中学高校生の読書フォーラム2016」を開催いたします。

読書フォーラムですが、啓明学園、昭和高校、拝島高校から委員が選出され実行委員会を立ち上げ、準備を進めております。今回も昨年度盛り上がった公募の「中学生によるビブリオバトル」を予定しております。また、例年通り中学校にPOPの作成も依頼しております。

続きまして、「分館等業務運営委託業者・(株)図書館流通センターによる分館・分室での子ども読書活動推進事業」でございます。

9月、子ども読書推進事業「聞かせ屋。けいたろうのよみきかせMini LIVE」を行いました。

1月の小学生向け読書活動推進事業「ぬいぐるみお泊り会」ですが、「ぬいぐるみお泊り会」というのはアメリカで始まり、日本では2010年から広まって各地で人気を博しています。内容を絵本で紹介いたします。すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、このようなかわいい絵本がございます。まず、連れてきたぬいぐるみを寝かせる。次に、泣いてしまう子もいるようですが、ぬいぐるみは図書館の中でゆっくりお休みをする。起きてきて遊ぶ。図書館

職員が読み聞かせをする。疲れて自分の愛読書を持ってきて寝る。翌朝ぬいぐるみを取りに子どもがやってくる。図書館職員は読み聞かせの様子を写した写真を渡す。という事業です。

これは業務委託している図書館流通センターが得意としている事業で、全国で行っています。そのようなノウハウを使って昭島市も行うということで楽しみにしている事業です。

2月、三井はるみ先生にお越しいただきまして、高齢者向け講座「方言ってどんなもの？」を開催。近隣の方言のお話をしていただきます。先生は国立国語研究所勤務、助教授と伺っております。

続きまして、資料3-1をご覧ください。

10月1日から昭島市民図書館に福島県の地元新聞を置くことにいたしました。私が鳥取県立図書館に行った際、鳥取県にも福島県から避難している方がいるということで、図書館の小林課長から「非難されている方は除染の状況がわからない。だから図書館にも置いているのです」という説明がありました。立川の図書館に行った際にも「この新聞は図書館では費用を払っていません」という話を伺いました。

調べてみると、福島県で「ふるさとふくしま帰還支援事業」というものがあり、新聞代郵送代すべて福島県負担。ならば昭島市も、ということで10月から置いている状況です。

「福島民報」を本館・昭和分館、「福島民友」を本館・緑分館に設置しております。週2回に分けて配送されますので、配送され次第配架しております。昭島市には福島県から50人ほど避難しているようです。非難されている方や福島県に関心のある方が、毎日ご覧になっています。また、「他県の新聞を」というご質問がありますが、非難されている方が少ないことや、福島県が実施している「ふるさとふくしま帰還支援事業」のような制度がございませんので、実施していません。

真如会長 ありがとうございます。ご説明がありましたが、ご意見ご質問等ございますか。

それでは(4)子ども読書活動の現状と課題についてよろしくお願いいいたします。

石川館長 資料4をご覧ください。

平成27年度子ども読書活動推進委員会(中学校)報告です。市民図書館では、小学校では小学校教育研究会図書館部会へ児童担当を派遣し、小学校の図書担当教諭との情報交換や夏休みの課題図

書の作成、図書館で行っているおはなし会や団体貸出、図書館員が学校へ出向いてのブックトーク、職場見学などの案内を行っていますが、中学校には図書館部会がありませんので「子ども読書活動推進委員会（中学校）」を立ち上げ、年1回ですが中学校との情報交換を行っております。今年度は8月6日に開催いたしまして中学校長会長の中島先生、教育委員会から雑賀指導主事、中学校から担当教諭、市民図書館から私と小澤係長が出席いたしました。

最初に中島校長先生から、職場体験や教員の10年研修で図書館に世話になっているとのこととお礼と、図書館活動の理解と自校の子どもたちの読書活動の更なる充実というところで話し合いを進めてもらいたいという話がありました。話し合いは議題に沿って進められましたが、先生方から頂いた意見で強かったのが、本年度学校図書に入った業者に対する改善要求です。この要求につきましては私から教育委員会へ伝えました。

また、「市民図書館からの団体貸出を5年間ほど行っていなかった学校がこの委員会をきっかけにして取り組みを開始した」「ある中学校では図書館ボランティア便りを発行している」ということがこの委員会でわかりました。

続きまして資料5、資料6をご覧ください。

第二次昭島市子ども読書活動推進計画におきまして、家庭・学校・地域・関係機関の大人によるネットワークを強化し、子どもの読書活動を支援するという目的があります。市民図書館ではこの目的に乗せた取り組み状況を把握するため、子どもに関わりのある機関・施設に達成度調査を実施し、7月15日に庁内連絡会議を実施しました。

庁内連絡会議のメンバーは企画部企画政策課、健康課、子育て推進課、子ども育成課、教育委員会から選出されております。

当日の会議では、各担当から調査の報告及び課題が報告されました。意見としては「市民図書館からの支えに感謝している」「ボランティアの選出が難しい」という声がありました。

学校の状況をお話させていただきます。

1 児童の読書活動の取組状況

朝読書は活発に行われている。児童自身の読書活動については本好きの子どもとそうでない子どもの偏りといった課題が依然としてある。本を読んでいない子どもを啓発するのはなかなか難しいという意見もある。

読書活動の必要性の啓発については各学校とも良好に行われている。団体貸出については、行っていない中学校が26年度には2校あったが今年度は全中学校で行うようになった。

2 学校図書館整備への取組状況

ア・イ・ウは概ね良好な結果だった。エ・オ・についてはAからDに回答が分かれた。

3 教職員の共通理解と読書活動、調べ学習の研修

先程申し上げました学校支援員の件がありましたので、本日再度、教育委員会へ検討をお願いしたところです。

第二次子ども読書活動推進計画では、「学校図書館の教職員を対象とした研修の機会を作ります」と記されております。

今年度夏休みに、図書館で教員14名の10年研修を受け入れました。そのなかで「雄弁とは何か」という話や、図書館所蔵のマイクロフィルムの明治時代の新聞、昭和39年10月10日の東京オリンピック開会式の写真を見せて、「このようなものが図書館にあるので、ぜひ活用してほしい」と話しました。

(本を掲げ)「水は答えを知っている」という本、皆さんご存知かと思いますが、例えば「ありがとう」と水に声を掛けますと、きれいな結晶になります。ところが「ばかやろう」等という言葉になるとこのような結晶になります。ということをお話しました。

そこからもう少し深めまして、たとえばパスカルの「パンセ」という本がありますが、この中に「雄弁とは何か」とあります。

雄弁とは簡単に申し上げますと「相手の気持ちになって言葉を発しなさい」ということですが、本にはそのようなことが事細かに書いてあります。このような話をし、学習指導の参考にしていただいたという状況でございます。以上です。

真如会長 ありがとうございます。ご意見ご質問等ございますか。

美坐委員 資料4で、図書館に出入りしている業者への改善要求が出たとありますが、具体的にはどのような内容が上がったのですか。

石川館長 「聞いても答えが返ってこない」などです。図書館は学校支援がありますので検討をお願いします、とお話させていただきました。

吉野委員 資料にはありませんが、子ども読書活動についてお聞きします。近隣で相互利用できる立川・あきる野・武蔵村山・福生などでは0歳から図書館カードを作っているのですが、昭島の子どもでもそちらに行けば0歳でもカードを作れる状態ですが、昭島市の図書館カード

を作る年齢は小学校に入学してから、と聞いています。小学校に入学しても学校でまとめて作るのも個人では作れない、と言われていたのでお聞きしたいと思いました。よろしくお願いします。

石川館長 調査研究はしております。吉野委員がおっしゃられましたように福生は保護者と一緒に行けばカードを作れます。他市には貸出冊数制限がありますが、昭島は貸出が3週間で読めるだけ、という状況です。他市では延滞したら貸さない等ありますので、全体的に考え、新館に向けて見直していこうと考えております。

真如会長 4つの議題については以上でよろしいでしょうか。

5 その他ですが、前は大串先生にお話をいただきましたので、今日は本多先生にお話をいただきたいと存じます。昨日と先週、拝島第三小にて墨絵でお世話になりました。子どもたちが見違えるようになり、幸せを感じているところです。皆さまにお話をお願いいたします。

本多委員 今、お話がありましたように昨日は拝島第三小6年生、先週は5年生と1日お絵かきをして少しくたびれました。でもやはり子どもたちはパワフルで凄い。

先程館長から「福島民友」「福島民報」の話がありましたが、例の震災後、7月から岩手・宮城・福島・茨城の子どもたちと交流を持ち、墨絵を一緒に描くというセッションをしています。僕が大きいパネルに描き、子どもたちはそれを見ながら描いていました。

震災後初めて行った時、おにぎりやガソリンを持って行くわけにもいかず、僕は絵を辞めようかと思ったくらいショックでした。何もないですから。

福島も会津等いくつか回りましたが似たような状況で、海岸は未だにまっ平らです。石巻も町の方はまだいいですが、牡鹿半島の沿岸部は分断されて誰も学校に行けません。これはどうにもならないなと思っていたところ、石巻の教育委員会から呼ばれました。

しばらくして鮎川浜地区にある、全校6～70人の鮎川小学校へ行きました。校庭には仮設住宅が建ってしまっている。今もまだ建っていて子どもたちは運動会ができない。体育館もあまり大きくないのでうまくいかない。

ですがいい学校で、そこで墨絵のお絵かきをしていました。震災があった年の子どもたちは、言葉が適切でないかも知れないがとて「悲惨」でした。

この場は大人だけだからお話しますが、僕が墨で大きい絵を描く。

その墨がタラタラ〜と流れると、今は「墨が流れている」と言いますが、見ている子どもたちほとんどが「先生、血が出ている」「早く治してあげて」などと言う。

後ろで子どもたちがそのように言うから、僕はショックで振り向けない。これは困ったなあと思った。

他に子どもたちの発言の中で、石巻の子ですが「学校も壊れちゃったし、ランドセルもお家も流されちゃった。机もないし、うちのおばあちゃんも流されちゃった。自分は階段のところで助かったけれど、おばあちゃんは「バイバイ」して流されてしまった」とあった。子どもたちはとても頑張っていて、その頑張り方が普通じゃない。だから、子どもたちが1秒でも2秒でも「おっ！」と思ってそういう状況から離れてくれればいいな、というのが行った趣旨です。

鮎川小学校の子どもたちは「みんなは震災があったことを忘れているのではないだろうか」つまり「僕たち私たちのことをみんな忘れていないだろうか」と思っています。

ですから「わかった。僕、東京に住んでいるから、東京で何か集まりがあった時はその話をする。どうして欲しい？」と聞くと「何にもしなくていいから、1か月に1度くらい僕たちが頑張っていることを思い出してほしい」と。それちょっと泣けますよね。泣きました。「わかった。絶対言うから」と約束をしました。

拝島第三小でも子どもたちにこの話をしました。

ですから、1か月に1度、2か月に1度でいいから「あの子たち頑張っているんだな」と思い出してください。

今回、つつじが丘南小に図書館が移りますが、その話を聞いた時から、中身は機能的にしなくてはならないが、今の南小をそっくりそのまま、教室を生かしたまま、あまりいじらずに図書館ができないものかと兼ね兼ね思っていました。

と言いますのは、千代田区に廃校になった小学校を生かしているいろいろなことを行っているところがあります。

テレビなどに時々出ていますが、それを見て「図書館が実は教室だったらどうだろう」と思いました。

大勢で集まるなら体育館もある。校庭はいじらない。

こちらから福生方面に行くと右側に小学校が見えますが、その校庭は真ん中が林のようになっている。南小も、それよりもう少し盛大な森のような林のような校庭にして、蟬やカブト虫採りができたらいかにおもしろいだろうと思いました。

ですから部長が、つつじが丘南小学校を「なるべく生かして」という話をおっしゃって少し嬉しくなりました。

もう1つ、山梨図書館のお話。「賑やかに」というのは僕も思っていました。今日はすごくいい情報と嬉しいお話ばかりです。

この協議会に参加させてもらった時から言わせてもらっていますが、図書館で1番良くないのは、子どもに限らず「あ」と言ったら「しーっ」とされるなど、いろいろな規制が働いていること。

もう1つは、いかにも貸本屋のようになってしまっていること。

実は僕には幼児体験があります。小学校時代は今のような学校図書館はなく、クラスの後ろに本が置いてある「学級文庫」でした。そこで3冊の本に出会い、今の仕事のベースができました。小学校5年です。

それは「ファーブル昆虫記」、アイヌの方々を差別した話、石森延男「コタンの口笛」。もう1冊は図鑑。これは昭和30年頃の図鑑なので絵が全部白黒でした。昆虫図鑑ですが、写真ではなく絵で描かれています。

岩波から出ている「ファーブル昆虫記」の中にファーブルが描いたと思しき虫のスケッチがある。それで「ファーブルのようになりたいな」と思い、図鑑を見て虫をスケッチしていました。僕は今でも虫が大好きですが、いつの間にかスケッチの方だけが生き延びて、そのまま絵描きになりました。ですから自分のきっかけになったのは完全にファーブルです。

石森延男「コタンの口笛」というのは何が良かったかという、話も衝撃的でしたが、実は表紙です。昭和20年生まれの僕から見て、子どもが読む本でこんな立派な本は無い。どういうものかと言うと、(本を掲げ)青い表紙で四角いマスがあり、印刷されていますが絵の紙が切って貼ってある。それだけです。ところがまわりの部分だけ表紙が厚いので中央が数ミリへこんでいる。そこに貼ってある。それを恵比寿の書店で見た時に「なんてかっこいいんだろう」と思いました。今でも内容は素晴らしい。文庫も出ています。

長じてもう1冊申し上げると、マルクス「資本論」です。マルクス資本論の中には芸術に関する記述が一つもない。「資本論と言いつつ芸術文化について触れないマルクスとはいかがなものか」と思ったらエンゲルスの方にあった。やっぱり凄いものだと思ったが、どうも僕の考えとは合わなかった。でも芸術というものの位置付けは、ただ好きで描いていればいいというものとは違うなということでした。

た。

当時、金杉先生というアメリカ帰りの先生がおおり、その先生の影響をとて強く受けアメリカにも行きました。今アメリカでも仕事をしています。

やはり子ども時代の影響はとても大きい。特に本については、今でも本の内容よりも体裁が好きで、書店に行って並んでいるのを見ると「いいなあ」と思う。少し大きめの本が平積みにしてありますが、そこにちょっと辞書的なものが4冊ぐらい立てて置いてある。その上にもう一回積むというのがなんともいい。本当にうっとりします。写真を撮って来て見せたいくらい。

僕は学級文庫でこのようになりましたので、本のあるところはどこでも好きです。新刊の書店でも古本屋でも。今度一度僕のギャラリーに来て下さい。神田神保町にあります。全部古本でそういう好み反映していると思います。読むわけではないが自分の家も本で壁を作っています。積むことも結構好きで積み方にも「そこじゃないんだよ」というのがある。

だから図書館の分類の仕方がお役所仕事の、僕には堅苦しすぎる。例えばモーツァルトだけのコーナーがあって、そこにモーツァルトを弾く練習本を置いたり、もう少し立体的にならないものかな。そこに行けば全部分かっちゃうような。

絵本もそうですが、絵本の括り方も作家名タイトル名であいうえお順になっていますがそうじゃないと思う。犬なら犬だけのお話や、花のお話、猫のお話…いろんな引っ張り出し方がある。

その根拠ですが、図書館というのは本とインクを山積みにしてある倉庫ではないと考えています。これは全然面白くない。

そして、それを書いたものが今お配りした紙です。それは図書館をどういうふうに見ているかという、「図書館には見たこともない花が咲いている」だけ紙とインクだと思ったら咲いていない。でも植物図鑑だと咲いている。魚もクジラも泳いでいる。冒険もできる。そういう見方なのです。虹もオーロラも出ている。なんでもある。世界が全部ここにあるわけです。これが「図書館」。今までの「図書」の「館」じゃない。要するに僕らが知っている世界がここにぎゅっと知的に詰まっている。こんなに楽しいところはないと思います。辞書を1冊引き抜いて、あいうえおから順番に読んでいだけだつて凄いい。面白い。そうかと思うと人生論がありますから、自分が困難にぶち当たったり迷ったりした時は、そういう本を読めば教えて

くれる。偉い哲学者の先生やお釈迦さまが出てきて「お前、違うだろ」などと言う。そういうことがここで起こっている。子どもたちは、比較的こういう見方をしている。本が印刷された文字や写真と思っていない。これは一つの世界だから、自分の世界ともろに向き合っていて、ガチッと組んでいる。だから読んだり写真見ただけで泣いたりできる。だけど大人になると「それはまずいな」と思ってしまって、そういうことができなくなってくる。

それはなぜなら「本」だからです。「世界」「体験」ではないから。ですから子どもたちに限らず「本を読む体験」ではなく「本を読んでもその世界に入る体験」をしていただいたらどうだろう。

そうするとその辺にドラえもんがいたり、もしかすると戦争が起こっていたり、それ反対っていう奴がこちらにいたり、いろんなことが起こっているわけです。先程のぬいぐるみのお話と同じです。ぬいぐるみは寝てしまうけれど、今から僕らが帰って誰もいなくなったら、本がパタッと開く。キリンや象が出てくる。「あれ？」と思ったらクジラが空を飛んでいる。そういうことができる空間はここしかありません。イマジネーションを使ったらディズニーランドやユニバーサルスタジオジャパンよりも面白い。狭くて限られた空間よりも絶対に面白い。要するにイマジネーションやインスピレーションを使う、そういう場です。あえて言えばここはワンダーランドじゃないという僕の思いです。

ここで昭島の図書館も変わりますし、そのようなコンセプトでやったら凄く面白いことができる。

最後に「立体的な知のワンダーランドにしよう」ということ。立体というのは、音楽会を開催してもいい。先程申し上げたモーツァルトの本の前で音楽会をやったらいい。ゴッホの本のところで僕が絵を描いてもいい。ぬいぐるみがあったっていい。何があってもいい。新図書館の敷地は広いから、救急車や消防車に来てもらい、消防車の絵本を広げて本物を触って消防署員が説明したっていいじゃないですか。そういう立体性。

それから昭島には立派なクジラがいるので、骨の写真のパネル展示をして、この地域のいろんなことを知らせれば「昭島ってそうか」といろいろわかる。何でも出来る。ここにお宝がゴッソリあるのに、そのお宝の上に僕らは座布団を敷いて座っている。その座布団をどかして、まず我々がお宝に触る。そしてそのことを情報発信する。その情報発信するコンセプトをここで提示したいと思って話をさ

せていただきました。ありがとうございました。

真如会長 先日、はじめに学級ごとに授業をしていただいたのですが「上手下手はありません。失敗ありません」というのを最初におっしゃってくださいました。そうすると子どもの顔が凄く変わりました。やっぱり子どもも大人も何かをやる時には構えてしまいます。それを最初から取り払っていただいて、とてもいい体験ができました。今日もいいお話をありがとうございます。

ではその他事項で何かございませんか。

磯村係長 事務局から。次回3月にお集まりいただきますが、マイナンバーが届くと思います。お支払いに必要になりますので、マイナンバーがわかるかたちでご準備をお願いいたします。

原 委員 先程、生涯学習部長から新図書館の設計についてお話がありました。図書館の運営管理について各地でTSUTAYAが問題になっています。まだ具体的には決まっていないと思いますが、新図書館はどのようなになっていますか。

山口部長 今のところ決まっていないというのが現状でございます。ただ、今の図書館の倍以上の面積になりますので、すべてをこちらの職員だけでということは以前の社会教育複合施設の計画を立てた時から無理だろうという話をいただいております。その辺りを踏まえ、運営管理に関しましては図書館協議会とご相談しながら…、その後は……決めていくという手順を踏んでいかなければなりません、今は全く決まっておられません。

原 委員 そういった段階になれば、図書館協議会委員の意見なども聞いていただけるのですか。

山口部長 図書館協議会という組織がありますから、それ以外の組織も作って……ということは考えておりませんので、その時になれば図書館協議会にご相談しながら進めてまいりたいと思っております。今のところはそういった状況です。

真如会長 他にございますか。

石川館長 事務局から。次回の日程でございますが3月16日（水）午後6時30分です。場所はあいぽっく保健福祉センターになります。よろしく願いいたします。

真如会長 本日の協議会は終了いたします。ありがとうございました。